

広い河川敷を有効に活用し、緑豊かな多目的な憩いの場とするため、砂防公園として整備を行っている。沿岸地区住民による「境川を守る会」が結成され、市民の憩いの場として、また、地域連帯の場として有効に活用されている。



わが国を代表する泉都別府市の西部には、鶴見岳をはじめ標高一〇〇〇メートルを超える山々がそびえている。

境川はその鶴見岳山麓を源とし、市域を二分する形で別府湾に注ぐ、流路延長六・九キロの河川である。平常時の



データボード⑤9

- ① 大分県別府市
- ② 別府市役所 ☎0977-21-1111
- ③ 延長1,211.6m、低水護岸4,916.0㎡、植栽工22,163本
- ④ コンクリートタイル、高らい芝、植栽工
- ⑤ 温泉祭、火の海祭の協賛

水量は少ないものの、急流河川で、洪水時には激流となるため、土石の流出により流域の荒廃が進んでいたが、長年にわたる砂防工事の結果、十分な抑止効果が発揮されるようになった。

そこで今度は、この境川の河川敷を有効に活用し、砂防公園として緑豊かな多目的な憩いの場にしよう、という気運が高まり、昭和五〇年から五五年までツツジ等を主体にした植栽や親水護岸工などの整備が行われた。

今では四季折々の草花が咲き乱れ、グリーンの芝生に多くの人々が憩う。また、周辺地域の人々による「境川を守る会」も発足し、河川美化を通じて地域連帯意識の高揚が図られている。